



樹蔭静けさ

北海道帯広三条高等学校
〒080-2473
北海道帯広市西23条南2丁目12番地
TEL : 0155 (37) 5501
発行日 令和4年9月30日

生徒が主役～一人一人が役割を果たして収穫の秋

◆本校生徒が中学生に説明～学校説明会

学校説明会を8月24日と25日に実施しました。2日間で合わせて約600名の中学3年生が来校してくれました。以前は教員主導で行っていたこの説明会ですが、2年前から3年次選択科目「自己表現」を選択している生徒が主体となって実施しています。今年度も48名の三条生が説明会の企画と運営に携わりました。特に学校説明については、プレゼンテーションに工夫を凝らし、三条高校の魅力を高校生目線で中学生に伝えることを心がけ、笑いを交えた説明で中学生の心を惹きつけました。学校説明の後は、校舎見学を行い終了。その後、自由参加の部活動見学が行われました。

中学生からは「高校生の説明が分かりやすくて楽しかった」「三条生が生き生きと活動する姿を見ることができた」「三条高校に入学したい気持ちが一層高まった」という嬉しいコメントをいただきました。

三条生が主体的に取り組む学びの成果を、多くの皆様に発信する機会となりました。

◆スムーズな運営～球技大会

球技大会が、9月27・28日の2日間にわたって開催されました。天候にも恵まれてスポーツの秋を楽しみました。3年生にとって最後の生徒会行事であり、生徒会や体育委員を中心に企画・運営を担い、審判は各部活動生徒が果たしてくれました。それぞれスムーズな運営がなされ、クラスの団結が一層深まった2日間でした。



節電運動しています

電力価格が高騰している現在の状況を鑑みて、本校では独自の節電運動～目指せ！マイナス昨年度比10%！～を展開しています。日頃の細かなスイッチOFFを徹底することで節電していこうとするもので、日が短くなり消費電力が多くなってくる秋口から運動を始めることにしました。昼間の生徒玄関や廊下・階段は電気を消しています。地球温暖化防止のためにも、できることから始めましょう！ご理解とご協力をお願いします。



P T A 行事も徐々に復活の秋



●全国高等学校PTA連合会大会 石川大会



8月24・25日に、石川県金沢市で開催された全国高等学校PTA連合会大会石川大会に梶本直哉会長はじめ5名で参加してきました。1日目は第1分科会「今、伸ばすべき本当に必要な力」と第2分科会「学習意欲を高める個別最適化、協働的な学び」に分かれて最新の教育動向を研修。2日目はファミリーマートの元社長で、現顧問の澤田貴司氏の講演を聴きました。

●高P連十勝支部研修会

9月10日に実施された十勝支部の研修会は鹿追高校が当番校でした。鹿追町環境保全センターバイオガスパラント、とち鹿追ジオパークビジターセンターを見学した後、然別湖に行きお弁当。最後



に神田日勝美術館を訪れ、日勝の絵画を鑑賞しました。バイオガスパラントではチョウザメ養殖やマンゴー栽培、さらに水素サプライチェーンなど様々な取組の説明を受け、水素自動車のデモ走行を見学するなど、鹿追町の先進的な取組や魅力を満喫した研修でした。来年度は足寄高校が当番校です。

●PTA学校施設見学会

9月17日に3年ぶりの学校施設見学会を実施しました。生憎の小雨が降る天気でしたが、本校卒業生でもある安藤教諭をガイド役に、学校内の見学と部活動の様子を見ていただきました。本校にまつわる様々なエピソードや蘊蓄を聞きながらの見学会は参加された皆さんも「そーなんだ」と驚きの連続。三条高校の歴史と伝統を実感した見学会となりました。



第24回 総務部長・3年5組担任 坂田直人 教諭

よい結果を得るには、よい準備が必要



◆野球は巨人

私の子どもの頃は、男の子のする遊びは野球しかありませんでした。毎日、小学校から帰ったらそのまま外で野球をして遊び、夜はテレビで巨人戦を見る。その繰り返しでした。私にとってのヒーローは原辰徳。大好きでした。ピッチャーと言えば江川、西本。よく真似をしていました。当然のように少年団に入り、中学、高校と野球一筋の生活です。ポジションはキャッチャーです。よく言われるのですが、野球ではキャッチャーだけが違う方向を向いています。全部、自分の視界にはいるわけです。どうしてもピッチャーの方に脚光があたりますが、自分の中では野球はキャッチャーがリードしていると思っています。

大学も野球をやりたくて、その当時北海道で一番強い大学を選びました。入学してみると上には上の人がいるものです。キャッチャーは諦めて外野手としてレギュラーを目指しました。お陰様で4年間で3回大学選手権（全国大会）に進み、4年の時は念願叶って神宮のバッターボックスに立つことができました。ずっと野球に携わっていたい、そう思って教員を目指すことにしました。

◆アルバイトで来ていた学校に

教員になろうと思って現実にはそう甘くありませんでした。卒業して1年目は実家に戻って採用試験までは試験勉強に専念し、その後は友人のつてを頼ってアルバイトをして過ごしました。実はその時、三条高校に来て自販機のジュースの入れ替えをしていました。まさかその後、その高校に赴任するとは思ってもみませんでした。

2年目からは期限付教諭として働き始めます。まず穂別高校、

次に木古内高校で1年ずつ勤め、4年目に晴れて正教員として恵山高校に赴任することができました。漁師町だからなのか、よそ者にはなかなか心を開いてくれません。加えて言葉のなまりがきつく、意味がわからないことが多くありました。「ホンツネ〜」って言われてもちんぷんかんぷんです。それでも地域の中に入っていくとだんだん近い関係になっていきました。一度懐に入っていくとあったかいんです。かつて私が勤務した高校は全て閉校しているか、閉校が決まっている学校です。三条高校は…大丈夫そうで良かったです。

◆周囲に感謝する心を忘れないでほしい

2校目に三条高校に赴任してきました。あれからずいぶん経ちましたが、あつという間です。素直でいい生徒たちですが、昔に比べると「生きる力」が乏しくなっている気がします。これは何でも与え、すぐ結果を求めてしまう私たち大人の側にも問題があるのかもしれませんが。多くの経験を積ませ、結果をじっくり待つ姿勢が私たちには必要なのだと思います。

今、3年の担任をしています。私は生徒にいつも、よい結果を得るには、よい準備が必要だと言っています。最後まで自分を信じて頑張ってもらいたい。そして、周囲に感謝することも忘れないでほしいなと思います。

インタビュー

きらり

三条高校で輝いている生徒を紹介します。インタビュアーは校長です。

第95回 平原社展に入選

美術部 3年6組 辻かなでさん



今年の平原社展に入選した辻さん。もともと絵を描くことは好きだったのですが、より一層楽しいと思えるようになったきっかけは小学校3年の時、「花の絵コンテスト」の授賞式の時の講評で、「みなさんの絵が選ばれたのは、上手なのではなくみんなと違う変な絵を描いたからです」と

言われたこと。その講評を聞いた時、「面白い。めっちゃ、描きたくなった」と思ったそうです。「好きに描いていい」とお墨付きをもらったような気がしたとのことでした。

今回の作品『Jam』は、バイクで混雑した道の写真があってその中で一人だけこちらを向いているおじさんがいて、それを描きたいと思ったのだそうです。「タイトルの『Jam』には『混雑』『ぎっしり詰め込む』という意味があるのですが、私たちはまずイチゴジャムのジャムを連想と思うので、タイトルを見て「ん？」と思って、また絵を見て考えてくれたらなあと思ってタイトルをつけました」と辻さん。そこまで

計算しているとは…脱帽です。

子どもの頃と今では何か変化ありますか？と聞いてみました。「もちろん、好きに描いていた子どもの頃の方が楽しかったのかもしれませんが、今は、楽しさよりも正しく描くということを中心にしています。自分の目で見て、他人から見ても正しい絵だと評価されると嬉しいです。正しく描くことによって自分が表現できる幅も広がると思うのです。自分一人で自己満足する絵を描くのではなく、周りの人からも評価される絵を描いていきたいです」ときっぱり。

辻さんが好きな芸術家はユーリ・ノルシュテインだそうです。「ロシアの映像作家です。『霧の中のハリネズミ』という、コマ撮りで撮られた映像作品の世界観が好きです」と言います。「これが自分の世界観という確立したものは無いですが、色んなことを学んだり、色んな人の作品を見て、こういう表現が自分は好きなんだなとようやく最近言えるようになってきました」と笑います。

「今はまだ描けたと満足することはないのですが、描いていく度に昔よりは成長できたかなと思えるようになりまして」と言う辻さん。今後は色んな道具を使って表現してみたいそうです。これからの活躍が楽しみです。

